

練習できることがうれしい

3カ月ぶりの活動に喜び

後輩に夢託し指導

新宮市立城南中学校では8日から、通常登校による教育活動とともに、段階的に部活動を再開。3年生は今春に予定されていた和歌山県中学校総合体育大会（総体）が中止となる中、久しぶりの部活動の再開を喜び練習に励んでいた。

同校では、「各クラブ1週間に2回の練習（土日はなし）」「活動時間は1時間」「新型コロナウイルス感染症対策のマニュアルを各クラブで準備し、それに添って行う」などの感染症の防止対策を実施している。8日は各クラブで協議し、9日から活動開始となった。

このうち、卓球部では感染症防止対策のため、軍手をはめてボールを持つ生徒が見られた。キャプテンの岩口竜馬くん（3年）は、「部活動が再開してこのメンバーで練

習できることがうれしい」と笑顔を見せた。岩口くんは、昨年の東

牟婁地方中学校新人卓球大会の男子団体戦で3位に入賞。今年の活躍が期待されていた。しかし、総体だけではなく、近畿中学校卓球講習会「真鳴杯」や東牟婁地方春季



久しぶりの部活動に汗を流す生徒

卓球大会も中止となった。

このため、「（休校になる前は）大会のために部活後も大人や部員と練習を行ってきた。総体がなくなったと聞いたときはモチベーションが下がった。何のために練習してきたか分からずに落ち込んだ」と岩口君は振り返る。

現在は、3年生が後輩を指導しており、「次の世代の子たちには、自分たちの出られなかった総体に出場し、優勝してくれたら」と夢を託し、「卓球部に入って大会に出場できたことを忘れず、社会に出たら小さなプレッシャーでは負けない人間に」と意気込みを話す。

副顧問の森浦展行教諭は、「このような状況下でも、選手が自己を高める方法を模索し、改めてスポーツができる楽しさや環境、家族らへの感謝の気持ちを感じてくれたら」と思いを語った。